

北海道グローバル人材育成キャンプ

道南・ネイパル森会場
令和元年8月26日
(主管教育局 渡島教育局)

令和元年（2019年）7月29日（月）～31日（水）の3日間、ネイパル森を会場に、異なる言語や文化、生活に対する理解と関心を深め、国際社会において主体的に行動できる資質・能力や積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する目的で、北海道グローバル人材育成キャンプが開催されました。

キャンプには全道各地（渡島・胆振・後志・石狩）から33名の高校生が参加し、英語でのコミュニケーション活動や講師によるワークショップを行いましたので、その様子を紹介します。

1日目

○ コミュニケーション活動 1

A L Tによるアイスブレイクゲームで笑いもあり、参加者は少しずつ打ち解けることができました。その後、キャンプで活動を共にする班メンバーと、チーム名や目標を記したチームフラッグを作成しキャンプへの意識を高めました。



【アイスブレイク】



【チームフラッグ】

○ ワークショップ 1

（講師：函館大学 阿部 ジョスリン氏）

講師から「意見の考え方や効果的な伝え方について」のワークショップを行っていただきました。ペアでの意見交換から大人数での意見交換の活動を通して、他者に賛同しながらも批判的に聞き、意見を伝える方法を学びました。



【意見の伝え方】

○ コミュニケーション活動 2

参加者全員が自分の地域・国での問題（海・森林）についてスピーチを行いました。スピーチでは、参加者が事前に調べてきた自分の地域や日本、世界の様々な問題点や解決方策等について英語で話すとともに、他の参加者の様々な問題や提案に耳を傾けました。



【参加者スピーチ】

2日目

○ ワークショップ 2（講師：JICA北海道 野々垣 真実氏）

SDGs（sustainable development goals:持続可能な開発目標）を紹介いただき、「サケが住める川がある街づくり」というテーマのワークショップを行いました。

各グループに中心に川が描かれた模造紙が配られ、住宅や商業施設、農場など、どのように配置することで、環境に配慮した街づくりとなるか英語で議論しながら、街づくりのシュミレーションを行いました。最後に全てのグループの川をつなげることで、自分たちの街だけでなく、川がつなぐ他の街（特に川下の街）についても配慮する必要性を学んでいました。



【サケが住める川がある街づくり】

○ ワークショップ3 (講師：北海道大学大学院水産科学院生

ジョーマルク・ナルシコ氏)

現在、大学院で、バイオプラスチック研究に取り組んでいる講師から、海洋プラスチックが引き起こす問題や解決方策等について説明がありました。「ただプラスチックを使うのをやめようと主張するのではなく、どうしたらこの問題の拡大を防ぐことができ、解決につながるのかを問い続けてほしい」とのお話がありました。



【海洋プラスチック問題】 SDGs14関連

○ ワークショップ4 (講師：ピーター・ハウレット氏)

以前、北海道地球温暖化防止活動推進員を務めていた講師から、森林破壊による地球温暖化の現状や自然や動物に配慮するアイヌの考え方、環境に対する海外の高校生の取組等の紹介がありました。「世界で何が起きているかをしっかり知ることが大切である」とのお話がありました。



【森林破壊等による地球温暖化】 SDGs15関連

○ コミュニケーション活動3・4

「課題である環境問題（海・森）について私たちができること」をテーマに、3日目のグループプレゼンテーションに向け準備を行いました。最初の協議で提案内容を決め、その後、プレゼンテーション用のポスター作成に取り組みました。



【プレゼンテーションの準備】

3日目

○ コミュニケーション活動5

グループごとにプレゼンテーションを行いました。森林破壊を防ぐために紙使用の削減を求める提案や、海洋プラスチックの回収方法や学校で環境問題に対する意識を高める方策などの提案がありました。

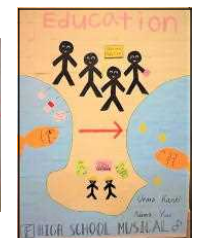
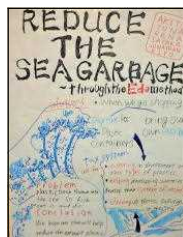


【環境問題：森林】



【環境問題：海】

【プレゼンポスター】



○ キャンプを終えて (参加者の感想や意見)

- ・ 予想以上に楽しくて参加して良かったと思いました。班での活動時間を通して、次第に自分の意見を積極的に伝えられるようになりました。始めは文や単語が思いつかなくて黙ってしまうことが多かったけど、みんなが頑張ってる話そうとしているのを見て、とてもやる気が出ました。来年も機会があればまた参加したいです。
- ・ 楽しかった。英語を学ぶだけじゃなくて、森林問題とか海の問題とか学校では学ぶことがないことをたくさん知れて良かったです。一番は間違えてもどンドン話すことが大切だと思いました。自分の英語は全然完璧じゃないので話したくはなかったけど、話したら楽しかったです。



【サケの住む川を持ち参加者全員で】